

日本近代文学

詩・翻訳・日本語・挿絵・雑誌

資料・研究書

2024.5

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp



TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461 東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032) eigyo@ozorasha.co.jp

- ホイットマンに響き合う [2024.3](#) 2
漱石を聴く 3
文明開化の歌人たち 3
井上靖『猟銃』の世界 3
詩集 内場幻想 3
資料集成 近代日本語〈形成と翻訳〉 4
明治期グリム童話翻訳集成 *僅少 5
日本におけるグリム童話翻訳書誌 *僅少 5
明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成 *僅少 6
日本におけるシャーロックホームズ 6
ロシア文化の森へ *僅少 7
ボードレール 明治・大正期翻訳作品集 8
「翻訳詩」事典 フランス編 8
明治翻訳文学全集 9
オーディオブックCD 三国志 吉川英治・橋爪功 *僅少 10
名作挿画全集 11

《原本装幀に準じた複製版》

- 複製 叢書 日本の童謡 *僅少 12
人間 / トルストイ研究 / 新文学研究 / プルウスト研究 *僅少 13



複製 叢書 日本の童謡

- 世界文学総合目録 14
図説 翻訳文学総合事典 14
明治期讃美歌・聖歌集成 *残部1組 14

《関連資料案内》【クレス出版】

- 白秋研究資料集成 15
小金井良精日記 15

ホイトマンに嚮き合う

ホイトマン論攷集

諸坂成利 著

[大空社出版 2024年3月]

第3回日本ホイトマン協会
協会賞(2024年)受賞

文学とは、研究・学問とは...

著者より

本書は、一読に値する労作です。執筆に一六年かかりました。ホイトマンに関心のない方でも、文学、あるいは文学研究に携わる方には、是非手に取ってほしい一冊です。文学への見方が変わると思っています。

ベルグソンによれば、ものの知り方には二通りあって、外から観察・分析をするか、あるいは内側から、直観と想像力によって対象に《なる》か、というのですが、多くの研究者は外からの分析に留まり、作品の本質を把握できません。なぜなら分析をすれば本質が見えなくなるからです。研究をすればするほど、調べれば調べるほど、対象が見えなくなるのです。この逆説、という常識を、研究者は皆忘れていて、そして研究を進めれば進めるほど、研究対象や当初味わっていた感動というものから離れて行ってしまふのです。ホイトマンに嚮き合い、その顔、その目を見

て研究するのか、それともホイトマンを見ずに、ホイトマン《について》調べるのか。後者は、実のところ「何をやっているのか? 学問をする身としては、人生の時間の無駄ではないか?」と私は考えています。通常の文学研究は《学問》と思われていますが、見方を変えれば《物好き》の道楽ではないか。文学作品は、読んで楽しみ、感動するものです。そして人生を動かすものです。文学作品の研究も、その感動から発するものでなければなりません。理論で作品を斬ることは、食材を味わうのではなく、単に包丁の切れ味を試しているだけです。そういった研究は文学とはかわりがない、と私は考えています。

文学研究、大学での文学教育に疑問を持っている方、あるいは将来、文学の道を歩もうと思われる方は、是非、本書を手にとって、《私》に触れてください。

(内容) *本文縦組

- 第一章 ボルヘスとホイトマン
- 第二章 ホイトマン研究の可能性
- 第三章 “The Sleepers”について
- 第四章 ホイトマンにおける Prudence
日本ホイトマン協会創立五〇周年を記念して
- 第五章 ホイトマン “Song of Myself” 32番の間テクスト的考察
- 第六章 ホイトマンに嚮き合う
ベルグソン、小林秀雄、カフカ、中島敦、ボルヘスらに学んで

索引

表紙絵: 長谷川潔 「一樹(ニレの木)」(版画)

ホイトマン論攷集
ホイトマンに嚮き合う



諸坂成利

大空社出版

四六判・並製・208頁(がんだれ・フランス表紙)

ISBN978-4-86688-237-6

定価(本体 2,800円+税)

Walt Whitman, 1819-1892

【著者】(もろさか・しげとし) 日本大学特任教授。日本ホイトマン協会会長、日本文藝家協会会員。著書に『虎の書跡 中島敦とボルヘス、あるいは換喩文学論』(水声社 2004)、『中島敦「古潭」講義』(彩流社 2009) など。

漱石を聴く コミュニケーションの視点から

小川栄一 著

菊判・232頁・並製・カバー 978-4-908926-61-7 [大空社出版 2019.3]

定価 (本体 3,600円 + 税)

夏目漱石の小説作品をコミュニケーションの観点から分析した書。漱石の「F + f」理論に基づくコミュニケーションが、初期には笑いやユーモアの表現、後期には人間対立や人間不信など近代人の懊悩の表現に用いられたことを明らかにする。漱石の東京訛り、うそや翻弄の会話、演説なども考察する。「近代におけるコミュニケーション研究の資料として漱石の小説作品に大きな可能性を見出した。漱石作品は日本語の談話材料として着目に値する。その小説にはさまざまなタイプの会話が展開されているが、実に生き生きとしたことば遣いが感じ取れる。それを当時の音調にふさわしく朗読してみれば、当時の澁刺とした日本人の声が響いてくる。漱石は山の手ことばと下町ことばに精通していた。作品中にしばしば現れる下町ことばからは江戸っ子の心意気までも伝わってくるかのようである。」



文明開化の歌人たち 『開化新題歌集』を読む

青田伸夫 著

四六判・228頁・並製・カバー 978-4-908926-19-8 [大空社出版 2017.12]

定価 (本体 1,600円 + 税)

『開化新題歌集』(1-3編)は明治10年代出版の出題歌集(大久保忠保編)。そこから明治初期、激変期日本人の驚き、衝撃、哀歎、興味、感動が、情感豊かに伝わってくる。押し寄せる西洋の新奇事物、歴史の波濤に揺られながら、歌人たちは何を感じ歌ったのか。現代を生き、詠む歌人が、彼らの生涯と時代を丹念に追い、作品と時代の心を味読する。「日本歌人クラブ評論賞」受賞(第16回・平成30年度)



井上靖『獵銃』の世界 詩と物語の融合絵巻

まとし
藤澤全 著

四六判・169頁・並製・カバー 978-4-908926-04-4 [大空社出版 2017.4]

定価 (本体 1,600円 + 税)

多くの外国語に翻訳され映画・演劇化される短篇『獵銃』。不惑四十を過ぎて新聞社デスクから文壇へと鮮烈なデビュー(1949・昭和24年「文学界」)を遂げた井上靖(1907～91)。その記念碑的作品の機構=作立てに込められた詩と物語の香気に満ちた芸術的源泉を精緻に紐解きながら、作品=ロマンの主題と魅力をあぶり出す。伝記・研究の第一人者が文芸作品を堪能する醍醐味へと誘う渾身の名作ガイド〈生誕110年(2017)記念出版〉



詩集 内場幻想

ないば

たかよし
宮武孝吉 著

A5判・107頁・並製・カバー 978-4-908926-62-4 [大空社出版 2019.7]

定価 (本体 1,200円 + 税)

香川〈内場〉(現・高松市塩江町上西乙。昭和27年、内場ダムの完成で内場ほか数集落がダムの底に沈んだ)の生んだ孤高の詩人、半世紀を超える作品から編んだ80歳にしてなす処女詩集30余編。詩集に寄せて(菰淵和士)。



資料集成 近代日本語〈形成と翻訳〉

全18巻・別巻1

川戸道昭・榊原貴教 編著 [発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2014-16]

B5判・上製・総9,550頁 揃定価(本体467,000円+税)

各巻分売可

☆配本・価格詳細はホームページ「各種目録」に掲載のカタログをご覧ください。

近代日本語は「翻訳」との遭遇によってその核心部分が形成されてきた。
近代日本語が形成される「現場」がここにある。

刊行のことば

編者

口語文と文語文の乖離を指摘し、日本語の改良を初めて政府に提言したのは、前島密であった。提言は徳川慶喜への建議書のかたちを取って上申し、その方法を国文教の改善に求め、学制の改革に托そうとしたことは、今日残されている『国字国文改良建議書』によって明白である。

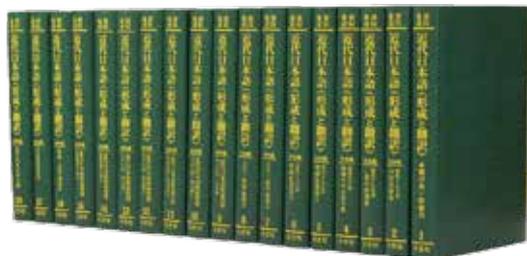
その後の日本語改良運動の流れは前例にない、明治政府に働きかけ、教育の啓蒙活動により、言文一致運動の成果獲得へと邁進していく。これらは、前島密が改良の目的を、自らの知的営為の源泉であった漢字を「支那字の頑毒」と批判して、国字改良を「國家富強を爲すの礎地御坐候」と述べたように、社会形成の一環として推し進められてきた。すなわち、近代日本語の形成は、近代国民国家を招来してきた啓蒙思想の一翼を担う、「上からの民主化」として行なわれてきた。

日本の近代文学もまた、啓蒙思想の普及の過程から発生してきた。読本、仮名草子からの脱却が始まったのは、西洋文学との遭遇による。しかし、文学界は明治十年代末の欧化熱反動⇨国粹運動の渦中にも、西欧文学の心酔者たちは国粹化と西欧化の狭間に身を裂かれながら、表現の場で暗中模索を始めた。社会的には富国強兵の体制に与しながらも、内面的には西欧が生み出した近代リアリズムとその表現方法の日本語化を求めて苦闘する。

日本語改良主義者たちは、言文一致運動の名の下に、ことばの表現の安易化を求め続けたのに対し、美妙、二葉亭、嵯峨のや、紅葉、思軒、魯庵という西欧文学に魅惑された文学者たちは、思想表現としての言語の緻密化に挑戦し始める。その闘いの成果は、明治二十年代の東京で一挙に開花していくことになる。いったん挫折した日本語改良主義者の啓蒙運動は、文学者の成果の礎の上で、明治三十年代の国家の強権化と共に再開され、国定教科書の中で成就されていく。

本集成は、このような歴史認識の下で、表現者としての翻訳家に主軸を置き、そのバック・グラウンドとして従来の近代語形成資料(「言文一致の鬼」といわれた山本正秀先生の研究に多く依拠する)を再点検し、編者なりの考えに基づき編集した。考えの基本は、近代日本語は翻訳との遭遇によってその核心部分が形成されてきたとの確信による。本資料集成が、今後の近代日本語研究の基本資料として活用されることを願うものである。

二〇一四年一月



全巻構成

第1巻	総目次+総索引(第2~18巻統合索引)
第2巻	挑戦する文体・山田美妙集
第3巻	懐疑する文体・二葉亭四迷集
第4巻	理想の文体・嵯峨のやおむる集
第2回配本	【文体編】(第5~8巻)
第5巻	苦渋する文体・尾崎紅葉集①
第6巻	苦渋する文体・尾崎紅葉集②
第7巻	言文一致作品集① 罪と罰(ドストエフスキー)作、内田魯庵訳
第8巻	言文一致作品集② 原作 ポー、ホフマン、ディケンズ、アンデルセン、ゾラ他 訳者 饗庭篁村、森鷗外、若松賤子、内田魯庵、森田思軒他
第3回配本	【史料編】(第9~13巻)
第9巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 江戸期 あゆみ抄(安永2)、唐詩選解(天明4)
第10巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期① 格賢勃斯英文典直訳(明治3)、ピネヲ氏英文典直訳(明治3)
第11巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期② 国字国文改良建議書(前島密)、民権自由論(植木枝盛) 他
第12巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期③ ことばの写真法(丸山平次郎)、日本新字発明(小島一騰) 他
第13巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期④ 言文一致(物集高見)、言文一致(言文一致研究会) 他
第4回配本	【史料編】(第14~16巻)
第14巻	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ① 計90件収録
第15巻	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ② 計104件収録
第16巻	演説・記事論説集 計63件収録
第5回配本	【史料編】(第17・18巻)
第17巻	国語改良異見 計70件収録
第18巻	現代名家文章大観 計166件収録
別巻	欧米文学の翻訳と近代文章語の形成 漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ

明治期グリム童話翻訳集成 全5巻

川戸道昭・榊原貴教 編 [企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画 1999.9]

B5判・上製・総1,550頁・各巻口絵1頁 全5巻揃 4-901061-05-4 定価(本体88,000円+税)

*** 残部数組**
(2024.5)

- 明治期グリム童話の翻訳を、初期に翻訳されたもの、雑誌に掲載のものを中心に復刻（明治期に訳された約300点から167点を集録）。全翻訳作品の「KHM分類別翻訳一覧表」「翻訳文学年表」を付す。



「…教育という啓蒙活動そのものが問われ始め、グリム兄弟によって完成された模範的な民話、すなわち日本人にとってはしつけの物語として定着してきたグリム童話に対する認識に揺れが生じた。グリム童話の初原を求めて、ヨーロッパ近代から中世への民俗的な心の旅がここから始まった。この旅の目的は、グリム童話改訂への関心という形で現れたが、実際はグリムを受容する日本人の意識がどのように変容してきたかという日本人自身の問題に行き着くように思われる。それは変化の究明というより、アイデンティティの模索といえよう。いま私たちはグリムを通して、一世紀余の西洋受容と日本児童文学構築のありようを再検討する最良の時代に遭遇したのかもしれない。（はじめに抄）」

*** 残部数冊**
(2024.5)

日本におけるグリム童話翻訳書誌

(翻訳研究・書誌シリーズ1)

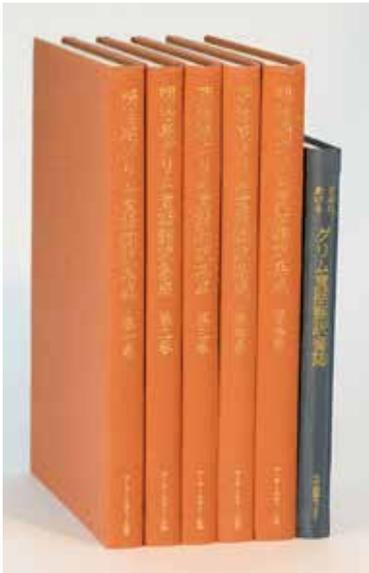
川戸道昭・野口芳子・榊原貴教 編著 [ナダ出版センター 2000.7]

A5判・上製・254頁 4-931522-07-6 定価(本体3,500円+税)

- 一つの童話が他の社会に伝播されるとき様々な変移をもたらすが、グリムのメルヒェンはその典型である。

[研究編] 川戸「グリム童話の発見 日本における近代児童文学の出発点」/ 野口「改変された日本の『白雪姫』：明治から現代まで」/ 中山淳子「『狼と七匹の子山羊』の謎」/ 虎頭恵美子「日本におけるグリム翻訳書誌 明治期のグリム童話の本邦初訳について」

[年表編] グリム童話翻訳年表（明治編、大正以降現代まで）/ グリム童話KHM分類目録



【参考】グリム童話4話の明治期に翻訳された作品リスト。

☆は『翻訳集成』に収録されて、掲載の形で読むことができる。

- ☆明20・9 八ツ山羊 (呉文聡訳 『西洋昔話』)
- ☆明22・9 狼と七匹の羊 (西翁訳 小国民)
- ☆明22・10 おほかみ (上田万年訳 『家庭叢話』)
- ☆明28・8 子猫の仇 (巖谷小波訳 『少年世界』)
- ☆明37・3 恰かな山羊 (教育資料研究会訳 『話の泉』)
- ☆明37・10 羊の天下 (巖谷小波訳 『少年世界』)
- ☆明41・10 狼と七匹の子山羊 (木村小舟訳 『教育お伽噺』)
- ☆明42・12 狼の計略 (百島冷泉訳 『グリムお伽噺』)
- ☆明43・9 狼と七匹の山羊仔 (近藤敏三郎訳 『グリムお伽噺』)
- ☆明44・2 狼と七匹の犢牛 (日野蔵村編 『ドイツお伽噺』)
- ☆明20・4 シンデレラの奇縁 (菅了法訳 『神仙叢話』)
- ☆明24・8 シンドレラ嬢奇談 (即ち泰西皿々奇談) (渡江保訳 『西洋妖怪奇談』)
- ☆明32・8 踊靴 (白雨楼主人訳 『少年世界』)
- ☆明42・3 真珠姫 (和田垣謙三・星野久成訳 『家庭お伽噺』)
- ☆明26・1 街道音楽 (西翁訳 小国民)
- ☆明35・1 プレメンの音楽家 (とも多訳 『少年世界』)
- ☆明36・3 プレメンの音楽者 (三槐生訳 『心の花』)
- ☆明38・11 プレメンの町音楽家 (山君訳 『心の花』)
- ☆明41・10 市街音楽者 (木村小舟訳 『教育お伽噺』)
- ☆明42・3 芸は身を助く (和田垣謙三・星野久成訳 『家庭お伽噺』)
- ☆明43・9 旅楽師 (近藤敏三郎訳 『グリムお伽噺』)
- ☆明29・4 小雪姫 (巖谷小波訳 『少年世界』)
- ☆明37・3 小雪姫 (教育資料研究会訳 『話の泉』)
- ☆明39・3 小雪姫 (橋本青雨訳 『独逸童話集』)
- ☆明39・5 小雪姫 (山君訳 『心の花』)
- ☆明41・10 雪姫物語 (木村小舟訳 『教育お伽噺』)
- ☆明41・12 雪姫 (寺谷大波訳 『世界お伽噺第9』)
- ☆明41・12 雪姫 (水野繁太郎・権田保之助訳 『独逸文学叢書』)
- ☆明44・2 白雪姫 (くすを生訳 新女界)

明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成 全3巻

川戸道昭・新井清司・榎原貴教 編 [企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画 2001.1]

B5判・上製・総960頁 全3巻揃 4-901061-06-2 定価(本体 50,000円+税)

***残部僅少**

(2024.5)

- 「探偵小説」が登場する19世紀イギリスを、明治期の日本が「翻訳」を通して捉えた姿とは？ 文学のみならず社会・文化研究に魅力あるテーマを与えるユニークな集成



【参考】(翻訳年表より)
☆は本集成に収録の作品、◎は『明治期翻訳文学全集(新聞雑誌編)8・ドイル集』に収録。

(収録作品抄)

第1巻 緋色の研究

- ☆明 32・4 血染の壁 (無名氏訳 毎日新聞)
- ◎明 33・9 倫敦通信 新陰陽博士 (原抱一庵訳 文芸倶楽部)
- 明 34・11 モルモン奇譚 (森嶋峰訳 時事新報)
- ☆明 39・11 神通力 (風葉山人訳 読売新聞)

第2巻 シャーロック・ホームズの冒険 1

「赤毛組合」

- ◎明 32・8 不思議の探偵 禿頭倶楽部 (水田南陽訳 中央新聞)
- ☆明 40・4 『銀行盗賊』 (佐川春水訳 建文社)
- ☆明 44・11 紅髪組合 (郡山経堂訳 『続英国探偵奇聞録』)
- 明 45・6 探偵奇聞 地下の秘密 (森嶋山訳 日本青年)

第3巻 シャーロック・ホームズの冒険 2

「唇の曲がった男」

- ◎明 27・1 乞食道楽 (無署名 日本人)
- ☆明 32・9 乞食の大王 (水田南陽訳 中央新聞)
- ◎明 36・10 偽紳士 (小羊生訳 慶応義塾学報)
- ☆明 40・12 乞食紳士 (本間久四郎訳 『神通力』)
- 明 42・5 紳士か乞食か (手塚雄訳 東西社)

日本におけるシャーロック・ホームズ

(翻訳研究・書誌シリーズ2)

川戸道昭・新井清司・榎原貴教 編著 [ナダ出版センター 2001.9]

A5判・上製・280頁・口絵8頁 4-931522-09-2 定価(本体 5,500円+税)

[研究編] 川戸「日本におけるシャーロック・ホームズ その『古典』化までの道すじ」/ 日暮雅通「日本だけが特殊なのか? ホームズ物語の翻訳の変遷とその特殊性」/ 植田弘隆「ホームズ児童書史散歩」/ 新井「日本におけるドイル、ホームズ移入史余談」

[年表・索引編] シャーロック・ホームズ翻訳文学年表 (川戸・新井・中原英一・榎原編) / シャーロック・ホームズ作品別索引

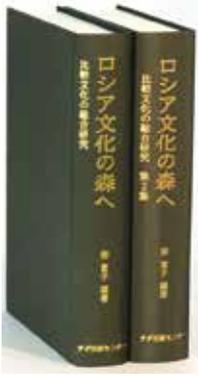
- 翻訳文学の中で、探偵小説研究は奇妙な場所に位置している。文学形式をとりながら、「文学」研究の主流からはずされ、傍流の研究として命脈を保って生き延びてきた。それは物語が最初から一つの結論を持ち、その結論に向かう条件として物語が進

展しているために「小説」研究の対象として第二義的なフィールドとみられてきたからであろう。しかし、現代日本でミステリーが「文学」作品の中で多くの読者を獲得しているのはなぜだろうか。

大衆化に成功した文学作品であると言ってしまうこともできるが、共同体の構成員の多数派である大衆がミステリーに魅せられてしまったのはいかなる社会条件によるのか。ハイデッガーが「退屈」について長大な思索をしたように、探偵小説の「おもしろさ」と近代の社会とはいかなる係わりを持ち合っているのか。この疑問は、現代社会を考察するうえで回避できない問題として、文学研究者の前に提示されていることは間違いない。シャーロック・ホームズものの詳細な翻訳年表の作成は、この問題を討議していくための土俵づくりをしていきたいと考えた。また、その基調報告として、百ページに及ぶ四本の研究による最新論考を巻頭に収めた。

個別的なテーマとしては、ホームズやワトソンが小室泰六と和田進一、堀見猪之助と和田真吉、本田宗六と和津などと名を変えて紹介された明治期の翻訳とは何であったのか、現代にあっても置き換え不能な語彙が残る文化の翻訳とは何なのか、翻訳史研究はまだ明快な解答を得ていない。こうした諸問題を解決し、文化の翻訳とは何かを考える一冊として利用いただければ幸いである。

(刊行に際して抄)



ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究

柳富子 編著 A5判・上製・652頁 4-931522-08-4 [ナダ出版センター 2001.2]

定価(本体 7,000円+税)

*
残部
数冊

ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究 第2集

柳富子 編著 A5判・上製・758頁 4-931522-12-2 [ナダ出版センター 2006.10]

(2024.5)

定価(本体 8,000円+税)

■ 早稲田大学比較文学研究室の半世紀に及ぶロシア文化研究の成果

【目次】

【第1集】

第1部 ロシア文化のなかのヨーロッパ

1. ロシアとヨーロッパ：ロシアの「他者」としての西欧（川端香男里）
2. 過渡期のトレチアコフスキイ：『アルゲニタ』序文から『チレマヒーダ』序文へ（佐々木精治）
3. ロモノソフのモザイク画（藤沼貴）
4. チュルコフの『からかい屋あるいはスラヴのスカースカ』におけるダンテの『神曲』受容について（杉野由紀）
5. ロマン主義バレエの萌芽を導いた振付家ディドロ（村山久美子）
6. 『スベードの女王』と『マクベス』：構造とイメージからみた対比的考察（森田敦子）
7. ロシアにおけるシュリング哲学：その受容と展開について（坂庭淳史）
8. 信仰の渴望と自我の凌駕：ツルゲーネフの『ステーノ』とバイロンの『マンフレッド』をめぐって（佐藤清一郎）
9. ドストエフスキイの文学的出発：『ウジェニー・グランデ』の翻訳について（杉里直人）
10. シラーとドストエフスキイ：問題設定のために（井桁貞義）
11. ドストエフスキイの作品における「ドン・キホーテ」（桜井厚二）
12. コロレンコとアメリカ（高野雅之）
13. M・ヴルーベリと世紀末芸術：〈西欧〉と〈ロシア〉における女性性の表象をめぐって（上野理恵）
14. チェーホフとモーパッサン：両作家の類似をめぐって（柳富子）
15. スクリャービンの『プロメテウス』とオカルティズム（長井淳）
16. ストラヴィンスキイのジャポニスムの側面：『日本の叙情歌からの三つの詩』の拍節法について（伊東一郎）
17. ウェルズからザミャチンへ：『ネオリアリズム』の誕生（草野慶子）
18. ベルリンのロシア文学 1921-1923：「ひとつのロシア文学」をもとめて（貝澤哉）
19. ミハイル・ブルガーコフのモリエール（菊池嘉人）
20. 『オーレリアン』あるいはナポコフ（鈴木正美）
21. イヴァン・ツルゲーネフとエドモン・ド・ゴンクール（小山ブリジット）

第2部 日本とロシア：交流のなかで

22. 1869、1870年のベテルブルグ農・林業大学の思い出（アンドレイ・コロレンコ著、沢田和彦訳）
23. 島崎藤村とツルゲーネフ：藤村が聞いた音、見た自然（梶内裕子）
24. 新宿中村屋女主人 相馬黒光：ロシアとの出会い（南平かおり）
25. ローゼンベルク研究に向けて（小林潔）
26. 『どん底』の太陽：テキストロジーの立場から（中本信幸）
27. 明治期のアンドレーエフ受容史の側面：『早稲田文学』『趣味』を中心に（塚原孝）
28. 神経衰弱の文学：谷崎潤一郎とロシア文学（源貴志）
29. 日本におけるトルストイの原像（八島雅彦）
30. 宇野浩二・芥川龍之介とゴーゴリの『外套』：「ちっぽけな人間」をめぐって（秦野一宏）
31. 芥川龍之介におけるドストエフスキイ：遺稿『闇中間答』を中心に（国松夏紀）
32. 日本の形式主義に与えたシクロフスキイの影響の一断面：横光利一と中河与一をめぐって（佐藤千登勢）
33. 小説『道標』の人々：1927/28年冬モスクワ（2）（笠間啓治）
34. 鳴海寛造のロシア：訪ソ日記から（中村喜和）
35. 日本におけるバフチンの移入について（佐々木寛）
36. ロシア語訳『源氏物語』：立ち現れる〈声〉たち（田村充正）

【第2集】

第1部 ロシア文化と外国：関係の諸相

1. 中世におけるスラヴ世界とヨーロッパ世界（川端香男里）
2. ロシア産育習俗（栗原成郎）
3. スマローコフの『ハムレット』（1748年）：死から生への変容（柳富子）
4. ロシアにおけるダンテ概観：『神曲』を中心に（佐々木寛）
5. ジュコフスキイの翻訳バラード『杯』について（岸本福子）
6. 対話するオードとエレジー：プーシキンの「エレジー」（1830年）のジャンルをめぐって（鈴木健司）
7. プーシキン『ボリス・ゴドゥノフ』における民衆：シェイクスピア史劇との対比的考察（森田敦子）

8. ゴーゴリウクライナ・バロック：民衆文化（伊東一郎）
9. キュスティース『1839年のロシア』とその受容（坂庭淳史）
10. カロリーナ・パヴロワの『ファンタスマゴリー』について（南平かおり）
11. スキアヴォーニに死す：ツルゲーネフの『その前夜』と「魔法の街」ヴェネツィアについて（相沢直樹）
12. ツルゲーネフと音楽：ロシアと西欧の狭間で（佐藤清一郎）
13. 散文詩をめぐって：ベルトラン、ボードレール、トゥルゲーネフ（粕谷典子）
14. 『マッチ売りの少女』とドストエフスキイ（藤沼敦子）
15. 夢想のオリエンタリズム：クズネツォフの《日本版画のある静物》をめぐって（上野理恵）
16. スクリャービンの『秘儀』のイデーとブラヴァツキー神智学（長井淳）
17. アシャーソン・ゴレイゾーフスキイのアヴァンギャルド・バレエ『美しきヨセフ』（村山久美子）
18. ゴーリキイの見たエセーニン（佐藤純一）
19. イサドラ・ダンカンからバレエ・リュスへ：ロシア象徴主義の舞踏観に関する試論（草野慶子）
20. アリスからアーニャへ：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』のナポコフ訳をめぐって（小西昌隆）
21. シギズムンド・クルジジャンフスキイ『文字殺しクラブ』における『ハムレット』と演劇の問題（上田洋子）
22. リルケの『マリーナ悲歌』についての一考察：リルケとツヴェターエヴァ、詩的世界観の探究（吉見薫）
23. 魯迅とロシア：授受関係の構図（柳富子）
24. Ю・トゥイニャーノフにおけるハイネ（八木君人）
25. ミハイル・ブルガーコフの『ドン・キホーテ』（菊池嘉人）
26. 交差点の住人と越境する詩人：ロシアにおけるカヴァフィスとプロツキー（長谷川麻子）
27. ソ連スパイ小説の神話（桜井厚二）
28. 精神病院とカーニバル（神岡理恵子）
29. 現代ロシアの文化研究とポストモダンリズムにおけるバフチン理解
30. 悲恋の構造（藤沼貴）

第2部 日本とロシアの交流

31. ロシアから伝わった仏露辞書の話：鎖国時代の日露文化交流の一面（中村喜和）
32. 黒野義文：東京外語露語科からベテルブルグ大学東洋学部へ（沢田和彦）
33. 日本学者ローゼンベルクとロシア式漢字排列法（小林潔）
34. 知られざる日本学者マリアンナ・ツィンをめぐる日本人たち（笠間啓治）
35. 百姓思想家江渡秋嶺とトルストイ（阿部軍治）
36. 硯友社文学に見られるツルゲーネフ受容の様相：柳川春葉の場合（梶内裕子）
37. 島村抱月の「二元の道」（木村敦夫）
38. 日本におけるアルツイバーシェフ：「サーニン」翻訳以前（塚原孝）
39. アルツイバーシェフ紹介の側面：鷗外と二葉亭をつなぐもの（源貴志）
40. 芥川龍之介とドストエフスキイ：『カラマーゾフの兄弟』から「藪の中」へ（国松夏紀）
41. アンナ・アフマトワの日本初訳をめぐって：日露混血の異色作家大泉黒石の訳業（中本信幸）
42. 日本における二つのソ連映画の受容をめぐって（佐藤千登勢）
43. 井上靖の「おろしや国酔夢譚」考（小山ブリジット）
44. ドストエフスキイと黒澤明：『白痴』をめぐる語らい（井桁貞義）
45. 女性作家というヴィジョン：現代文学における1990年代、日本とロシアの場合（高柳聡子）
46. 多和田葉子あるいはカモメラップ入りの干しぶどう：言葉と音のあわいで（鈴木正美）
47. ロシアの日本文学—古典篇（田村充正）
48. ロシア人の日本論：その側面（柳富子）

ボードレール 明治・大正期翻訳作品集

川戸道昭・榎原貴教 編集 [発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2016.6]

B5判・上製・430頁・カバー 978-4-283-01327-8 定価(本体20,000円+税)

- 世界的遺産・詩人ボードレールの作品が日本人の精神史におよぼした軌跡を原典で見せる (復刻集成)。

● 明治・大正期のボードレールの詩の翻訳量は、他のフランス詩人の翻訳に比べても比類ない。大正末年に至るまでに、すでに100点を越える翻訳が新聞雑誌に掲載された。そして、その影響は文学史家の想定を超えるものがあつた。ボードレール研究を単に「学問」的な狭量な研究にとどめず、日本人の精神史の一環としてとらえるならば、再検討の時期にきていると言える。

上田敏によって幕開けされたボードレールの日本語の翻訳は、蒲原有明、三木露風、永井荷風、内藤濯、仲田勝之助、三富朽葉、山村暮鳥、川路柳虹、大手拓次、堀口大学、谷崎潤一郎、相馬御風という、研究者ではなく、日本近代詩史の担い手たちによって行なわれてきた。ボードレールの詩は、単に日本の読者に届けられていただけでなく、詩人自らの詩作に刺戟を与え続けていた。日本の近代詩はその影響下で生成してきた。その軌跡を明らかにすることが、文学史と文化史の役割であり、また世界的遺産であるボードレールの作品に、現代日本人はいかなる評価と対処をなすべきか、当然フランスのボードレール研究者とは異なる見解が生れてきてもよいであろう。(刊行にあたって抄)



[内容・特色]

- ① 明治・大正期に日本語訳されたボードレールの作品(詩・散文詩)を集成、発表年代順に編纂。
- ② 可能な限り(初出)文献を採用し、新聞雑誌(一部単行書)に掲載の形を再現する復刻資料。
- ③ 収録作品名を網羅した初の翻訳史年表「ボードレール翻訳年表」(約50頁)付。

「翻訳詩」事典 フランス編

榎原貴教 編著 [発行：大空社出版・ナダ出版センター(共同出版) 2018.7]

B5判・上製・560頁・カバー 978-4-908926-49-5 定価(本体28,000円+税)

新組

- 明治以降の「翻訳詩」の深奥で馥郁たる文学世界を膨大な原典引用(作品・詩論と翻訳者・原作者)で見せる真にユニークな“初の”「翻訳詩」事典

- 膨大な言説の集積=必読・不朽の資料で読む・見る翻訳詩と翻訳史。近代日仏文芸交流史の粋を結集



[構成]

I 日本とフランス編 (約250頁)

日本近代の翻訳者と重要翻訳作品および文芸・文化・社会思潮関連の事項を〈**原典資料の引用**〉を主に構成する。500余点の著作・論文からの引用。項目約160(小見出し約340)は、翻訳と翻訳詩関連の研究テーマ・キーワードの宝庫。

II フランス詩人編 (約250頁)

原作詩人(主に19世紀以降30人弱)の明治以降の代表的紹介・論評を〈**原典資料の引用**〉で構成。また、代表作の翻訳を並列し比較・味読のための他にない資料とする。詩人別「翻訳総年表」を付す。

参考文献(執筆者別引用文献リスト)
索引(人名・件名・書名)



明治翻訳文学全集

編集 川戸道昭・中林良雄・榎原貴教*

近代・現代文学、比較文学・文化、言語、
社会、歴史、思想、教育、芸術……
日本と世界を再検証する窓——
“翻訳”という視座はここに確立した！

《新聞雑誌編》*《新聞雑誌編》編集協力

制作 ナダ出版センター
発行 大空社 1996-2001

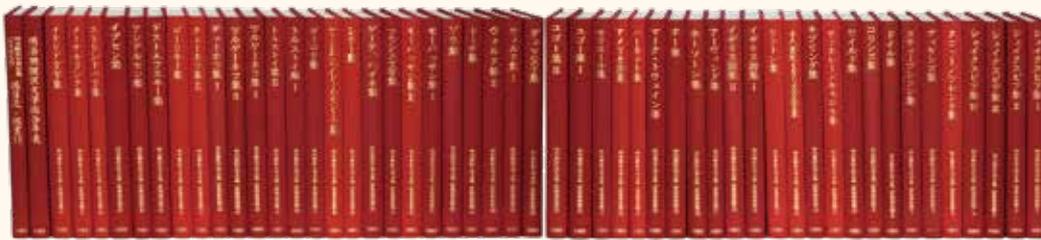
《翻訳家編》

発行 大空社/ナダ出版センター(共同出版)
2002-2003

【体裁】B5判・上製・クロス装
各巻定価(本体 15,000円+税)

*別巻を除く

*各巻
分売可



《新聞雑誌編》
全50巻・別巻2



《翻訳家編》
全20巻

西欧作家別《新聞雑誌編》を縦系とし
翻訳家ごとに巻別する《翻訳家編》を横系として
明治期翻訳文学の全体像を浮かび上がらせる。

★《新聞雑誌編》《翻訳家編》収録作品に重複は1篇もありません。

●内容・構成 《新聞雑誌編》①作家別巻立て62名50巻(イギリス16巻/アメリカ6巻/フランス11巻/ドイツ2巻/ロシア10巻/北欧・南欧5巻)②各巻頭口絵=作品(装幀・口絵・挿絵・誌面等)・作者・翻訳家の写真・肖像等③作家・翻訳家ごとの「明治翻訳文学年表」(新聞・雑誌・単行本)収録④各巻に研究者による作家・作品論、目録・書誌、また翻訳文学との関わりについての論考を掲載⑤別巻2(総合年表・総索引・総目次)
《翻訳家編》翻訳家別巻立て24名20巻。新聞雑誌および単行の稀観書より収録。

●収録体裁 ①作品発表順配列を基本、発表年月(新聞は年月日)を収録ページ欄外に作品名・翻訳者名と共に明示②作品は原則として発表掲載のまま該当ページを複製、新聞掲載作品はページの収まるように適宜編集

■全収録作品は、
(大空社出版)ホームページに
掲載しています。(各種目録)
*冊子カタログ進呈、ご請求下さい。

《新聞雑誌編》完結に際して(2001年5月)より

なぜそのような作業(日本の近代の橋頭堡となった「翻訳」を洗い直し、日本の「近代」とは何であったのかと考えるための資料整備)が必要であると考えたのかといえ、関東大震災に遭遇し明治期の近代遺産を明らかにしようと努力した吉野作造を中心とする明治文化研究は近代を是認しこれを顕彰する地点から始められた。それは旧時代に比して新時代が限りなく明るく見えた時代を生きてきた人々の当然の思いであった。これに反し、私たちは「西洋近代」を明るく見てもいいものばかりと見做すことができなくなっている時代を生きている。近代システムのひずみが日本においては明治の出版のなかですでに内臓されていたことが明らかにされている。研究はいま「近代」の光と影を相対的に明示しなくてはならないだろう。すなわち、明治期の研究は自らの都合のよい遺産のみを顕彰するのではなく、明治期に生きた日本人の社会現象を相対的に捉え直す必要に迫られている。その総体の中からその後の日本人が何を打ち捨て、何を顕彰してきたのかを再検討する必要がある。このことは些末な事柄が重要であるということではなく、現在立っている位相を相対化する遺産として欠かすことができないと考えるからである。



世代を超えた生涯の「宝」

オーディオブック

全文朗読 CD

三國志

吉川英治 原作

橋爪功 朗読

全100枚 総108時間

三國志には、詩がある。単に、歴大な治乱興亡を記述した戦記軍談の類でない所に、東洋人の血を大きく搏つ一種の諧調と音楽と色彩がある。…劉玄徳とか、曹操とか関羽、張飛そのほか、主要人物などには、自分の解釈や創意をも加えて書いた。随所、原本にない辞句、会話なども、わたくしの点描である。

—吉川英治『三國志』序より

魏 蜀 吳

いったい何人の人物達が現れては消えていったことか、遙かな昔、遠い国の人間達愛すべき男や、いとおしい女、嫌な奴や小賢しい者達、それこそ枚挙にいとまがない人物達が右往左往し、時に栄華を誇り、衰え、滅ぶ、その奥に吉川英治という作家の大きな、とてつもなく温かい目が注がれている。そして、まさにその事が奮い立たせ、足掛け三年にも及ぶ大仕事をやり遂げさせてくれた原動力だったと、今あらためて感じている。

—橋爪功「吉川さんの息遣い」ガイドブック所収より

偉大な国民的作家による不朽の名作 その豊かな物語りの世界に踊る無慮数千の個性名優・朗読の手法が 人の呼吸をそのままに いのちを吹き込んだ朗々たる全108時間



(大空社 2009 年発行)

[音源] NHK ラジオ「吉川英治名作選」(平成5年9月～8年7月放送)。放送当時から大反響、再放送・商品化を望む多数の声が寄せられていた名朗読。のべ約108時間・完全収録。

マルチケースに各4枚入・特製函収納
ガイドブック(80頁)付
(原作本は付いていません)

ISBN978-4-283-00624-9

(セット) 本体 236,190円 + 税

*** 残部数組**

(2024.5)

* お支払い方法(分割払等)ご相談承ります。

第一級洋画家・日本画家・漫画家…

総動員の「^か画き^お下ろし」挿絵による

《超豪華・贅沢・唯一無比》名作文学全集

名作挿画全集

さしゑ

全6巻
別巻1

複製版編集
上 笙一郎

■志村立美・画〈林不忘「丹下左膳」より



「丹下左膳の物語」は、江戸時代中期に活躍した小説家・林不忘の代表作である。この挿絵は、志村立美によるもので、左膳の姿を巧みに描き出している。



「この全集のために」
錚々たる画家が画き下ろし

「挿絵は独立した作品である！」を
宣言・実証した

日本の出版美術・挿絵文化史上に

燦然たる光彩を放つ大金字塔―

《知る人ぞ知る》超豪華挿画全集！

丹下左膳

『丹下左膳』は、江戸時代中期に活躍した小説家・林不忘の代表作である。この挿絵は、志村立美によるもので、左膳の姿を巧みに描き出している。

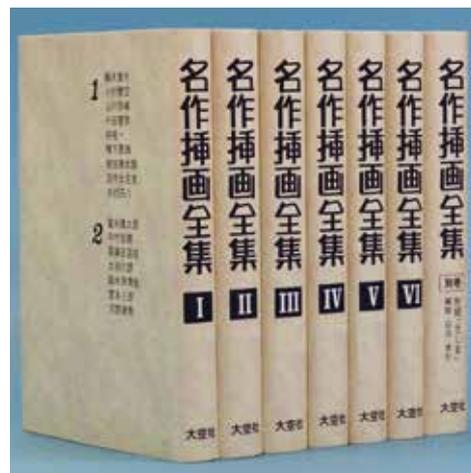


錦木清方・画〈樋口一葉「にぎりえ」より

挿絵を
じっくり鑑賞して
名作文学が読める！
《唯一無比》の全集



岩田専太郎・画〈菊池寛「明眸禍」より



(大空社 2014年10月刊)
A5判・上製 (本文モノクロ1色印刷)
第1～6・各巻平均330頁・別巻500頁
978-4-283-01309-4

揃定価(本体100,000円+税)

『名作挿画全集』(I～VI・別巻1)は、『名作挿画全集』全12巻、附録「さしゑ」全12号(平凡社、1935・昭和10年～1936・昭和11年)を複製したものです。原本の2巻ずつを合本しI～VIの構成とし、別巻に附録「さしゑ」、解説・目次・索引を収録しました。

●ご注文
お問合せは
直接こちらへ
お願いします。



パンセ
学術図書販売(株)

専売

電話 078(945)7835

〈原本装幀に準じた複製版〉

複製 叢書 日本の童謡

全 38 冊 + 別巻解説書 上 笙一郎 編 (大空社 1996-1997 年刊)

- 児童文化を彩る大正・昭和の代表的作品で日本の童謡の世界を再現
- 原本は稀覯本、丁寧な複製で挿画・装幀の色彩・装飾とともに味わう！

[第1回配本 19点]

詩集 ふる郷 有本芳水 (大正7)〈溝手恵理〉
 口語詩新体詩 浜千鳥 星野水裏 (明治44)〈佐藤光一〉
 名作童謡 少年の歌 児玉花外 (大正11)〈谷悦子〉
 天葉詩集 白鳥省吾 (大正5)〈宮崎芳彦・尾崎るみ〉
 花咲爺さん 北原白秋 (大正12)〈関口安義〉
 少女純情詩集 西条八十 (昭和7)〈菊永謙〉
 青い眼の人形 野口雨情 (大正13)〈柴村紀代〉
 お日さま 三木露風 (大正15)〈和田典子〉
 童謡 よしきり 山村暮鳥 (大正14)〈吉田定一〉
 鸚鵡の唄 川路柳虹 (大正15)〈谷萩弘人〉
 ひろすけ童謡集 小鳥と花と 浜田広介 (大正14)〈向川幹雄〉
 銀の鈴 相馬御風 (大正12)〈磯部孝子〉
 歌時計 水谷まさる (昭和4)〈根本正義〉
 僕等の詩集 サトウ・ハチロー (昭和10)〈宮中雲子〉
 柴木集 島田忠夫 (昭和3)〈上田信道〉
 雪こんこお馬 権藤はな子 (昭和7)〈野口存彌〉
 風 武内俊子 (昭和8)〈西寄のり子〉
 繭と墓 金子みすず童謡集 金子みすず (昭和45)〈島田陽子〉
 童謡詩集 えのころ草 真田亀久代 (昭和48)〈こわせたまみ〉

[第2回配本 19点+別巻]

赤彦童謡集 島木赤彦 (大正11)〈石井光恵〉
 小さな鶯 若山牧水 (大正13)〈万屋秀雄〉
 童謡 白兔と木馬 葛原しげる (大正11)〈石井妙子〉
 青ぞらのとり 浅原鏡村 (昭和2)〈高橋忠治〉
 童謡集 ばあやのお里 大村主計 (昭和7)〈佐々木美砂〉
 鹿島鳴秋童謡小曲集 鹿島鳴秋 (昭和4)〈草野明子〉
 合歓の揺籃 加藤まさを (大正10)〈永田桂子〉
 凧 竹久夢二 (大正15)〈滝沢典子〉
 抒情詩画集 花嫁人形 落谷紅児 (昭和10)〈岩崎真理子〉
 旗・蜂・雲 与田準一 (昭和8)〈長谷川潮〉
 童謡集 雪と驢馬 巽聖歌 (昭和6)〈佐藤通雅〉
 雀の木 佐藤義美 (昭和7)〈西山利佳〉
 五島列島 近藤益雄 (昭和9)〈上笙一郎〉
 スズキヘキ童謡集 スズキヘキ著・スズキヘキ友達会編 (昭和50)〈宮川健郎〉
 日本童謡集 1925年版 童謡詩人会編 (大正14)〈畑中圭一〉
 赤い鳥童謡集 北原白秋編 (昭和5)〈西田良子〉
 小さい同志 プロレタリア童謡集 楨本楠郎・川崎大治編 (昭和6)〈大藤幹夫〉
 まざあぐうす 北原白秋訳 (大正10)〈吉田新一〉
 Songs for Children: Sung in Japan 日本童謡集 上原征生訳 (昭和15)〈原昌〉
 別巻『日本 童謡のあゆみ』

収録作品

解説者(別巻に収録)

別巻『日本 童謡のあゆみ』(上笙一郎編) *分売可

総説・解説・童謡研究文献目録(畑中圭一編)

童謡作品名/作者・作曲者名索引 A5判・上製・360頁

4-7568-0378-4 定価 6,600円(本体 6,000円+税 10%)

永遠の愛蔵版 = 究極の造本



全巻揃
残部
数組

(2024.5)

全38冊+別巻 揃定価(本体 267,962円+税)

第1回配本 [1996.9] 4-7568-0305-9 揃定価(本体 133,981円+税)

第2回配本 [1997.3] 4-7568-0306-7 揃定価(本体 133,981円+税)

*分売不可

(一部の巻は分売できます。詳細お問合せください。)



人間

 全 71 冊・別巻 1

小田切進監修／高橋英夫解説 [大空社 1992. 9-1993. 3]
A5 判 (別巻上製) 定価(本体 200,000 円+税)

■戦後日本文学の出発点となった記念碑的文芸雑誌(鎌倉文庫刊、昭和 21. 1-26. 8。編集長・木村徳三)の複製。石川淳「処女懐胎」、高見順「わが胸の底のここには」、織田作之助「世相」、井伏鱒二「侘助」、堀田善衛「広場の孤独」、佐多稲子「私の東京地図」、上林暁「聖ヨハネ病院にて」、島木健作「赤蛙」、また河上徹太郎、中村光夫、桑原武夫、平野謙、中島健蔵、加藤周一、荒正人、花田清輝、吉田秀和、岸田國士、林達夫、等々 400 人以上の豪華執筆者は枚挙にいとまがない。三島由紀夫は本誌から

文壇デビュー。別巻: 鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」(内容) 戦後の記念碑的雑誌「人間」(小田切進: 遺稿) / 「人間」解説(高橋英夫) / アンソロジー: 鎌倉文庫と「人間」(川端康成、高見順、巖谷大四、永井龍男、三島由紀夫、遠藤周作ほか) / 『人間』時代(木村徳三) / 総目次 / 挿画家名索引・著者名索引 / 鎌倉文庫出版リスト、鎌倉文庫参考文献



トルストイ研究

全 29 冊・別冊 1

柳富子解説 [大空社 1985] 菊判 4-87236-013-3
定価(本体 55,000 円+税)

*** 残部数組**
(2024.5)

■トルストイ会編・新潮社刊、1916・大正 5 年 9 月～1919・大正 8 年 1 月刊(総約 2360 頁)の複製(函入)。内田魯庵、中村白葉、昇曙夢、大泉黒石、八杉貞利、米川正夫、岩野泡鳴、島村抱月、豊島与志雄、本間久雄、広津和郎、小山内薫、片山伸、木村毅、近松秋江、山村暮鳥、室生犀星、阿部次郎、相馬御風、徳富蘇峰、等々、当代の文芸・思想・宗教等の分野の第一線執筆陣による、論文・随想・翻訳を掲載。別冊は解説・全執筆索引・総目次。



新文学研究

全 22 冊・別冊 1

曾根博義監修 [大空社 1994. 6] 菊 / 四六判
4-87236-912-2 定価(本体 145,631 円+税)

■伊藤整編輯、金星堂刊『新文学研究』全 6 輯(昭和 6. 1～昭和 7. 5)、『列冊新文学研究』全 16 冊(昭和 7. 9～8. 6)の複製(フランス装)。ジョイス、プルースト、ロレンス、ウルフ、ハックスリー、パウンド…20 世紀文学の最前線を受容(研究・翻訳・紹介)した昭和モダニズムの華。別冊は解題・総目次・索引。

*** 残部数組**
(2024.5)



金子みすゞ童謡集
蘭と墓

本体 1,000 円+税



プルースト研究

全 4 冊・付録 1

[大空社 1985. 2] 4-87236-007-9
定価(本体 15,000 円+税)

■フランス装アンカット版(完全複製)(195 × 185 ミリ、函入)。1934・昭和 9 年 7 月・9 月・10 月・12 月(作品社刊)に、『作品』同年 9 月所収の「誌上出版記念会」を付録。伊吹武彦、生島遼一、井上究一郎、市原豊太、淀野隆三、河盛好蔵、山内義雄、渡辺一夫、青柳瑞穂、杉捷夫、等々錚々たる執筆・訳者陣。

*** 残部数組**
(2024.5)



みだれ髪

与謝野晶子(鳳晶子)

本体 1,000 円+税

豊富 膨大 詳細 信頼 便利

約10万点の翻訳作品と原作を知る！

世界文学総合目録

全10巻 + 作品名索引

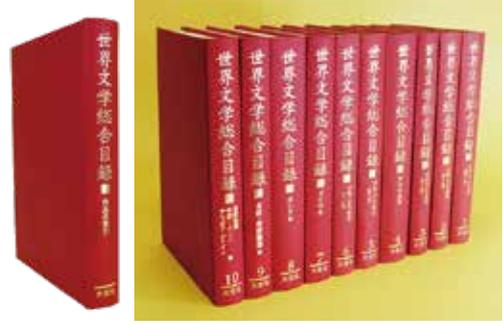
川戸道昭・榊原貴教 編 [発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2010-13]

B5判・上製 全11巻揃定価(本体 264,000円 + 税) 各巻定価 (本体 24,000円 + 税)

*各巻
分売可

☆配本・価格詳細は
ホームページ「各種目録」に
掲載のカタログをご覧ください。

第1巻	イギリス編①(あ~し)	490頁	978-4-283-00628-7
第2巻	イギリス編②(す~は)	410頁	978-4-283-00629-4
第3巻	イギリス編③(ひ~わ・補遺)	310頁	978-4-283-00631-7
第4巻	アメリカ編	580頁	978-4-283-00632-4
第5巻	フランス編①(あ~ふ)	440頁	978-4-283-00634-8
第6巻	フランス編②(へ~わ)	390頁	978-4-283-00635-5
第7巻	ドイツ編	350頁	978-4-283-00637-9
第8巻	ロシア編	650頁	978-4-283-00638-6
第9巻	北欧・南欧諸国編	550頁	978-4-283-00640-9
第10巻	東欧諸国・中国・インド アラビアン・ナイト編	470頁	978-4-283-00641-6
世界文学総合目録 作品名索引			480頁 978-4-283-00643-0



徹底した〈現物確認〉
今後これを凌駕する目録は
望めない！

図説 翻訳文学総合事典 全5巻

翻訳文学総合事典刊行会 (代表：川戸道昭・榊原貴教) 編

B5判・上製・総約 2,300頁 978-4-283-00743-7 揃定価(本体 120,000円 + 税)

[発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2009.11]

1. 図録 日本の翻訳文学 (全カラー図版) / 図説日本翻訳文学史 400頁
〈図録=全カラー〉明治・大正期に刊行された翻訳書から、時代を画した書、装幀のすぐれた書を中心に見せる。〈文学史〉は近世(1573年~)・明治期(~1912年)を見せる。
- 2・3. 原作者と作品 (1・2) 総900頁
日本で紹介された外国文学の時代像と作品の変遷(原則として明治初期から昭和20年までを対象)を作家名五十音順に配列。内容は略歴、作家・作品像の引用、全集内容一覧、初訳の特定とその後の訳の変遷(訳文冒頭と挿絵で紹介)、解説などからなる。収録作家約100名。
4. 原作者と作品 (3) / シリーズ叢書・全集総覧 500頁
シリーズ・叢書・全集は時代の趣向を反映する。その細目を洗い出し、カバー・口絵を可能な限り紹介。明治期の訳者別翻訳年表付。
5. 日本における翻訳文学 (研究編) 460頁
28名の研究者が文学・美術・音楽・教育等から多彩に論じ「翻訳文学」の全貌を究明。

■〈類書皆無〉翻訳文学の《全貌》を
明らかにした図説総合事典



明治期 讃美歌・聖歌集成 全42巻

☆ホームページ「各種目録」に
全収録内容掲載しています。

監修 手代木俊一 [大空社 1996-1998 刊]

A5判・上製・クロス装 揃定価(本体 465,631円 + 税)

残部
1組

(2024.5)

日本語、翻訳、音楽、教育
宗教、出版、比較文化…重要資料

- 正教会系 [1~5巻]
- カトリック系 [6~11巻]
- バプテスト(浸礼)教会系 [12~14巻]
- メソジスト教会系 [15~17巻]
- 一致(日本基督)教会系 [18・19巻]
- 組合教会系 [20・21巻]
- 共通・統合讃美歌集 [22~26巻]
- 福音系 [27~29巻]
- 小教派、団体及び個人編纂讃美歌集 [30~32巻]
- 聖公会系 [33~37巻]
- 救世軍 [38巻]
- 日曜学校、子供讃美歌・聖歌集 [39~42巻]

白秋研究資料集成 全10巻

宮澤健太郎 編・解説 [発行：クレス出版 2014.10]

A5判・上製 揃 978-4-87733-848-0 揃定価(本体 82,000円+税)

白秋はこのように
読まれてきた
〈精選復刻〉



北原白秋 1885-1942

白秋研究の証 (刊行にあたって抄) 宮澤健太郎

(…) 白秋に一旦接する機会をもって読み始めるや、その人間的生き様、考え方、幅のある資質、言葉の彩、日本的リズムを含めて人間臭さの総体として迫って来るのを感じざるを得ません。時代が変われば読みも変わります。白秋はこのように読まれてきたのだという白秋の研究史について各分野の証をここに集めてみました。どうか手に取って御覧下さい。

●全10巻構成 [復刻原本]

- | | | |
|--|-------------------|------------|
| 1 評伝 北原白秋 増補改訂 藪田義雄著 [玉川大学出版部 1978] | 978-4-87733-838-1 | 本体 12,000円 |
| 2 北原白秋〈物語評伝〉 宮本一宏著 [桜楓社 1986] | 978-4-87733-839-8 | 本体 8,000円 |
| 北原白秋 その青春と風土 松永伍一著 [日本放送出版協会 1981] | | |
| 3 白秋研究 木俣修著 [文化書院 1946] | 978-4-87733-840-4 | 本体 9,000円 |
| 北原白秋と俳諧 木俣修著 [『俳句研究』 1943] | | |
| 4 北原白秋の秀歌 吉野昌夫著 [短歌新聞社 1995] | 978-4-87733-841-4 | 本体 7,000円 |
| 5 詩人白秋その愛と詩 嶋岡晨著 [社会思想社 1972] | 978-4-87733-842-8 | 本体 6,000円 |
| 6 北原白秋ノート 飯島耕一著 [小沢書店 1978] | 978-4-87733-843-5 | 本体 7,000円 |
| 7 北原白秋の世界 その世紀末的詩境の考察 河村政敏著 [至文堂 1997] | 978-4-87733-844-2 | 本体 9,000円 |
| 8 白秋の童謡 佐藤通雅著 [沖積舎 1991] | 978-4-87733-845-9 | 本体 6,000円 |
| 9 北原白秋と児童自由詩運動 野口茂夫著 [興英文化社 1997] | 978-4-87733-846-6 | 本体 10,000円 |
| 10 北原白秋 童心の彼方へ 宮澤健太郎著 [白百合児童文化研究センター 2006] | 978-4-87733-847-3 | 本体 8,000円 |
- (追加論文・宮澤著)『白秋小唄集』をめぐって / 谷崎潤一郎と白秋 / 小川未明と白秋 / 「白秋の歌一首」と斎藤茂吉 / 白秋と朔太郎 朔太郎の恋文 / 金子光晴の童謡と白秋 / 『白南風 = しらはえ』と白秋 / 白秋と室生犀星

小金井良精日記 全4巻

北村孝一・藤村美織 編集協力 西田泰民 新潟県立歴史博物館 解説

A5判・上製 [発行：クレス出版 2015-16]

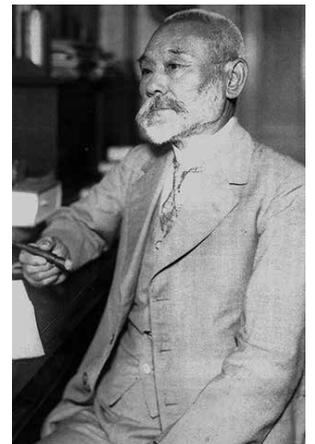
明治篇 全2巻 [2016.12] 揃 978-4-87733-915-9 揃定価(本体 26,000円+税)

大正篇・昭和篇 全2巻 [2015.12] 揃 978-4-87733-916-6 揃定価(本体 30,000円+税)

解剖学者、アイヌの人骨研究などの人類学者の 60年に及ぶ日記 (1883-1942) を完全活字化

森鷗外の妹・喜美子を妻とし、孫には作家星新一という特異稀なる家族の歴史、東京大学や日本全国の医学界や解剖学、人類学等の学会、学士院の実態、御前講演、旅行・渡欧の記録など近代史・社会史の貴重な史料。

◆妻喜美子(再婚、鷗外の妹。随筆家・歌人)。長男良一(海軍軍医少将、昭和大学教授。妻素子は哲学者桑木巖翼の娘)。次男三二(生化学者、癌研究所勤務後昭和大学教授、元日本癌学会会長)。長女田鶴(夫は柿内三郎・東京大学医学部生化学教授、現在日本生化学会にその名を冠した賞がある)。二女精(夫は星一、星製薬社長・衆議院議員 / 戦後参議院議員、長男は作家星新一)。



小金井良精 1858-1944

*詳細はクレス出版ホームページにて

●ご注文・お問合せは直接こちらへ

電話 03-3808-1821

Fax 03-3808-1822

www.kress-jp.com

東京都中央区日本橋小伝馬町14-5-704(〒103-0001)

クレス出版

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461 東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032) eigyo@ozorasha.co.jp

◆詳細はホームページにて、または案内資料ご請求を

〈資料・史料・研究〉

＋
オリジナル出版
(研究成果 / テキスト)

他にはない1冊を！

- 2024.4 **八五歳からの日記** コロナ巣ごもりの記 高野繁男 著
わじまもんじょう
- 2024.3 **輪島聞声事典** 米村美奈・割田剛雄 編著
- 2024.1 **高度経済成長と社会教育** 辻浩 編
- 2023.10 **日本工業博物館史の研究** 馬淵浩一 著



- 制度はいかに進化するか 技能形成の比較政治経済学 K・セーレン (石原俊時・横山悦生監訳) 2022.3
- 近代社会教育における権田保之助研究 娯楽論を中心として 坂内夏子 2019.8
- 歩いてみよう 志津 史跡・いまむかし 宮武孝吉 2018.9
- 近代日本語史に見る教育・人・ことばの交流 伊藤孝行 2017.3
日本語を母語としない学習者向け教科書を通して
- 少年行刑の歴史からみる知的障害者福祉の萌芽 末松恵 2022.3
- 私の記録、家族の記憶 阿久津美紀 2021.8 *2021年度日本社会福祉学会学会賞・奨励賞(単著部門)受賞
ケアリーヴァーと社会的養護のこれから
- 「劣等児」「特別学級」の思想と実践 阪本美江 2021.5 *2021年度日本特別ニーズ教育学会文献賞受賞
- 京都「特別学級」成立史研究 史料と論究 玉村公二彦 2021.2
- 明治＝岩手の医事維新 医師・三田俊次郎の挑戦 三田弥生 2018.8
- 戦前日本社会事業調査資料集成 社会福祉調査研究会編集部編・同事務局発行・大空社出版発売
●残部僅少 別巻(調査資料文献／概要) 2019.12 補巻(災害救助) 2017.10 ●残部数冊
- 日本における女子体育教師史研究 掛水通子 2018.2

ロングセラーは
評価の証し！



東洋学芸雑誌
DVD-ROM版



赤い鳥
CD-ROM版

〈電子版〉

- 1: MeL 丸善雄松堂
2: KinoDen 紀伊國屋書店

明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧¹
〈実録〉幕末・明治・大正の八十年^{1,2}
北斎漫画¹
明六雑誌・明六雑誌語彙総索引¹
古今要覧稿¹
アジア学叢書^{第1巻}総目次編¹

◆詳細はホームページにて、または案内資料ご請求を